



ダイバーシティ人材 マッチング交流会

第3回 新現役交流会

令和5年1月20日(金)いわき産業創造館にて、「ダイバーシティ人材のマッチング交流会」第3回新現役交流会(いわき市共催、関東経済産業局後援)が開催され、取引企業11社がオンラインと会場とのハイブリット形式で参加企業の代表者が面談を行いました。

参加した会員企業が、首都圏に在住する専門知識を持つ企業OBの「新現役」、大企業等で現役世代の「副業人材」、市内で障がい者雇用に取り組む「就労支援事業者NPO法人ソーシャルデザインワークス」、外国人技能実習生の受け入れをサポートする「マニユファクチャリングサービス協同組合」の四分野の幅広い人材を活用して事業者の抱える課題を解決することが目的です。

「新現役交流会」では、9社



が53名の新現役と、「副業人材」との面談」では2社が4名の副業人材と、1社あたり5〜8名ずつ25分のオンライン面談をし、2社が就労支援事業者と、2社が外国人人材紹介事業者とそれぞれ会場で交流し、4つの交流の場で延べ65の面談が実現しました。

いわき市と連携した副業人

材活用事業で地方の企業とマッチングするプラットフォーム「Skill Shift」(スキルシフト)「運営会社:株式会社みらいワークス」の「副業人材」の活用提案と、いわき市との共催で開催する豊富な経験値を有する新現役をマッチングする「新現役交流会」を令和5年度も開催する計画です。



地域をつなぐ 未来をつくる

vol.4 2023.09

うるしの実クラブ
WEBサイト

うるしの実クラブWEBサイトでは、会員企業の紹介や交流会・イベントのお知らせなどを掲載しています。

下記URL・QRコードからスマートフォン、携帯電話、パソコンからご覧いただけますので、是非ご確認ください。



URL
<http://www.urushinomi.com/>



編集:「うるしの実」編集委員会
発行:いわき信用組合
いわき市小名浜花畑町2-5
電話:0246-92-4111



うるしの実クラブ会員の 株式会社 起点 様の事例

今回は、令和3年3月~現在にわたり経営課題の解決のため、人材マッチングを活用して成果を出された株式会社起点代表取締役 酒井悠太様に副業人材の活用とその効果についてお聞きしました。



Q1 いわしんから人材マッチング活用の提案を受けるきっかけと、当時の課題をお聞かせ願います。

A 弊社は、東日本大震災後の2012年春にスタートした有機栽培の棉花で福島県の農業再生と、収穫した棉花を元に繊維産業の確立、地域内外の人と農作業を共にすることを地域コミュニティの創生を目的とした復興事業「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」から独立する形で、2019年4月に設立しました。

有機農業による在来種の棉花栽培と、それを原料とした製品の企画・開発・製造で自社ブランド製品「SIOM E」の販売を行っています。

起業して早々に新型コロナウイルス感染が流行し、それまでメインとしていた「BtoB」の案件が軒並みキャンセルとなりました。対抗手段として、商品開発および販売先を「BtoC」に切り替えていくことを考えましたが、実績が無い弊社にとって、販路計画を組みなおすことは相当困難な作業でした。

震災復興プロジェクトとして続けてきたソーシャル事業をビジネス化するにあたり、まずはプロモーション製作を見直す必要があると提案していた最中に、「いわしん」から「副業人材活用」の提案をいただきました。

弊社のスキルだけではクリア出来ない課題もあると感じていたの

で、特定の専門家を一方的に派遣する仕組みではなく、自分たちがハンズオンして伴走いただく専門家を決めるという仕組みが面白いと思いつきました。

重ね、新商品開発プロジェクトの提案をいただきました。又、外部発信の手段としてアワードへの応募を検討し、「ソーシャルプロダクツアワード2022」で年度大賞を受賞することが出来ました。その他、他業種との連携やファイナンスについても適宜アドバイスいただきました。

Q2 副業人材に求めたことやコスト面についてお聞かせ願います。

A いわしんがいわき市と連携して取り組んでいる「副業人材活用事業」を通じ、首都圏の大手企業で働きながら副業として地方の事業者のプロジェクトに参画を希望する若者とをマッチングするプラットフォーム「Skill Shift」(運営会社:株式会社みらいワークス)に対し、「自社製品の広報・PR・ブランディングの強化」と題し求人募集をしました。

当時、被災地復興プロジェクトからスタートした事業をローカルビジネスへ転換するために、これまで積み重ねてきた実績や新たに発信したい社風、扱う素材の特徴を、どうすれば消費者にうまく伝えることが出来るか、これらが正しく言語化・視覚化され、魅力あるコンテンツとしてHPやメディアに効果的に発信したいというニーズでした。

謝礼については個別の交渉となりますが、およそ3万円/月を基本としました。

Q3 副業人材からの支援の成果や現在の取組み内容についてお聞かせ願います。

A 事業背景の強み、原材料の在庫問題など、様々な視点からヒアリングを重ね、新商品開発プロジェクトの提案をいただきました。又、外部発信の手段としてアワードへの応募を検討し、「ソーシャルプロダクツアワード2022」で年度大賞を受賞することが出来ました。その他、他業種との連携やファイナンスについても適宜アドバイスいただきました。

又、弊社のような少数の事業者では満足出来ないタスクが多々あり、PR以前に行う必要がある諸問題を、一から整理いただきました。現在も既存商品のブランディングの整理、セールス向上、マーケティングの組み直しなど総合的なコンサルティンクを受けています。



設立25周年 うるしの実クラブ総会を執り行いました

令和5年7月20日(木)パ
 レスイワにて、うるしの実ク
 ラブ会員事業者110名の代
 表者にご出席をいただき、令和
 5年度うるしの実クラブ定時
 総会を行いました。

冒頭に加茂博文会長(株式会
 社ハウス21代表)から挨拶を
 いただき、本多理事長が挨拶を
 述べました。

第1号議案で令和4年度事
 業報告並びに収支決算報告に
 ついて、第2号議案でビジネス、
 人材マッチング交流会や今年
 度が同クラブ発足25周年の
 記念となる節目になることか
 ら記念ポスターを発行するな
 どを盛り込んだ令和5年度事
 業計画案並びに収支予算計画
 案について、すべての議案が全



会一致で可決されました。

総会終了後は、同パレスイワ
 やの別会場にて、令和元年以来
 4年ぶりの交流会が行われ、佐
 藤昇副会長(株式会社佐藤コン
 サルトント代表)の乾杯のご
 発声のもと、会員間の交流・親
 睦を深めながら情報交換など
 活発に行われました。

また、交流会では鈴木一成幹
 事(株式会社いわき印刷企画セ
 ンター代表)より記念ポス
 ター(映画化プロジェクトポス
 ター)のコンセプトなど詳しく
 ご説明やいわき市総合政策部
 創生推進課様より「フラシテイ
 いわき」ロゴマークの活用につ
 いてなどのプレゼンテーショ
 ンが行われました。

クラウドファンディング 磐城国

いわしがエリアオー
 ナーとして2016年2月
 から管理・運営を続けてい
 るクラウドファンディング
 磐城国(CAMP FIRE
 サイト内のキューレション
 チャンネル)を活用して2
 020年8月に、いわき市
 いわき商工会議所いわき
 産学官ネットワーク協会・
 いわき信用組合の4団体が
 協働で「企業ひと技応援
 ファンド」を立ち上げました。

前年度はポストコロナで
 新たなビジネスモデルの構
 築や事業承継に取組む市内
 の事業者8社に対して「ク



【企業・ひと・技 応援ファンドとは?】
 次世代に継承する技術やサービス、商品を持つ事業者や、コロナ禍を乗り越えるための新しいビジネスモデル構築に取り組む事業者を支援するプロジェクトです。いわき市、いわき産学官ネットワーク協会、いわき信用組合、いわき商工会議所等の連携による「オールいわき」体制のもと、クラウドファンディングに挑戦する地域の事業者にもウハウウを提供し、広報や支援の呼びかけ等を行います。



<https://camp-fire.jp/curations/iwakinokuni>

生産性向上支援訓練セミナー

令和4年度は、ポストコロナ
 を見据えた事業の改善・再生・再
 構築の機会を求める会員事業者
 に対して、生産性向上と業務効
 率化を目的とした福島職業能力
 開発センター(ポリテクセン
 ター)と連携した「生産性向上支
 援訓練セミナー」を2回参加人
 数延べ28名で開催しました。

同年度2回目で開催した令
 和5年1月24日(火)では、市
 内のポリテクセンターいわきに
 て、営業や販売現場での「提案型
 営業手法」を学ぶセミナーを行
 いました。講師に株式会社日本
 能率協会コンサルティングの青
 木和博先生をお招きし「お客様
 視点での提案が評価される。価
 格の土俵で勝負せず、価値の提

供で勝負するよう日頃から顧
 客の課題を考えることが大切
 だ。」と述べられ、顧客のニーズ
 を喚起する提案型営業の手法
 を解説されました。

受講者の年齢層は20代と60
 代と幅広く、ほぼ1日コースの
 カリキュラムにも関わらず終始
 真剣に取り組んでいました。30
 代男性(次期後継者の方)の感想
 では、「セミナーを受講して他の
 受講生から大いに刺激を受け
 た。自分のこれまでの仕事を論
 理的に整理することができ、新
 たな業務や業務の拡大に役立
 てることが出来た。」と高い評価を
 いただきました。令和5年度も
 満足度の高い充実した内容のセ
 ミナーをご提供する計画です。



文化講演会を開催しました

令和5年2月8日(水)ポレプレシネマ
 ズいわき小名浜で平成30年度以来、3年
 ぶりに文化講演会が開催されました。講
 師にはBSフジのプライムニュース他多
 数のメディアで活躍されている日本大学
 危機管理学部の先崎彰容(せんざきあき
 なか)教授をお迎えし、約90分の講話を
 いただきました。

会員130人が参加した講演会で先崎
 教授は「令和日本のデザインーこれから
 の世界情勢と地方の役割をめぐって」と
 題し、講演されました。先崎教授は東日本
 大震災発生時、いわき市平在住で、震災当
 時のことやコロナ禍における日本の状況
 に触れながら、今の日本は、正にうるしの
 実クラブ会員の皆さま地方の中小零細
 企業が居場所を与えている役割・存在で



あることなど、終始会員に寄り添った内容
 でお話されました。会員からの質問に対し
 ても丁寧にお応えいただき、たいへん有意
 義な講演会となりました。



講演会を前に行なわれた、いわき信組理事長長との対談の様子

うるしの実クラブ 合同入社式を行いました



令和5年4月3日(月)パ
 レスイワにて、うるしの実ク
 ラブ会員企業を対象に7社10
 名の新入社員が合同入社式に
 参加しました。

式の間、うるしの実クラブ
 加茂会長より「人生において失
 敗という言葉は無い。失敗から
 学び、次に生かすことが出来る
 と、失敗は経験となり成長とな
 り、成功へと進化させる。どうか
 まずはバッテリーボックスに立
 ち、三振を恐れずにフルスイ
 ングして欲しい。」続いて本多理
 事長より「時間軸を意識して自
 分自身を高めて欲しい。」と励
 ましの言葉が贈られました。

新入社員を代表して松田和
 真さん(田村建材株式会社)が「まだまだ未熟で頼りない
 私たちだが、チャレンジ精神を
 もって何事にも全力で取り組
 みたい。」と堂々と誓いの言葉
 を述べました。

入社式終了後は、CIS認定
 講師(いわしん職員)によるビ
 ジネスマナーの研修会が行わ
 れ、基本の挨拶の練習や、電話
 応対、名刺交換等、社会人の基
 本を勉強し、参加した皆さんは
 社会人としての第一歩を踏み
 出しました。